

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
教育支援スタッフ

2

チュウホク ドット コム

TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3013

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします



～第2号の見出し～

- ◆ 「感受性」を育てる「言葉」を育てる～竜王中央保育園にて～
- ◆ 「居場所」が未来を創る～中央市「外国籍児童・生徒第三の居場所」事業～
- ◆ 防犯教室の新しい形～甲西中学校「甲西プライドサミット」より～
- ◆ #中北バトン「韮崎愛は韮崎の景色から」 韮崎市教育委員会 堀川薫 教育長
- ◆ 学園祭シーズン到来～甲府西高校「第73回鳳凰祭」より～

「感受性」を育てる「言葉」を育てる ～竜王中央保育園にて～

6月21日、竜王中央保育園（風間敦子園長）の年長児クラス、ひまわり組で実施された「じゃがいものマヨネーズ焼きを作ろう!」に参加してきました。材料となるじゃがいもは、園内にある畑からひまわり組の園児たちが収穫したものです。



その日、外はあいにくの雨でしたが、子どもたちは元気はつらつ、マスク、エプロン、三角巾を身に着け、先生方の指導のもと、じゃがいもを洗ったり、皮をむいたりする作業を行いました。



園内の畑。ナス、トマトなど色々な野菜が植えられています。

印象に残ったことがあります。それは、子どもというのは、全身で周囲の出来事に向かい、何かを感じ、言葉を発したり行動を起こしたりしているのだということです。

取材中、園児たちが、先生方の声かけに伸び上がるようにして腕をピンと高く突きあげ「はいー!!」と返事をする場面がありました。また、ジュウジュウ、パチパチとじゃがいもが焼ける音に体の動きを止め、耳を澄ませるという場面もありました。これらはまさに子どもが全身を使って世界に向き合っていることを示す好例と言えます。子どもにとっては、これらすべての体験が「成長」につながっていくのでしょう。そう考えると、保育園をはじめ子どもがいる空間というのは、貴重な瞬間の連続で成り立っているのだということに改めて気づかされます。

さらに、子どもたちは、自らつかみ取った感覚に対し、次々と言葉を与えていきます。じゃがいもが油とからみ合って焼ける音には「雨の音みたい」、漂ってくるじゃがいもやマヨネーズの匂いには「いいにおい」「おなかすいてきた」「よだれが出そう」、でき上がった料理を口にして「甘かった」「あったかい」「おいしい」——まっすぐでみずみずしい言葉の数々に感動を覚えるとともに、言葉とは五感に直結する形で引き出され、獲得されていくのだとも感じました。

豊かな感受性と言葉を持っていることは、豊かな人生を送るための鍵を握ります。子どもたちの「感性」を刺激し「言葉」を引き出す保育園という場、保育士という存在の重要性を再認識するよい機会となりました。



「居場所」が未来を創る ～中央市「外国籍児童・生徒第三の居場所」事業～

6月4日、中央市田富総合会館1階にある「外国にルーツのある子どもたちの第三の居場所」を訪ねました。この「第三の居場所」とは、中央市が、B&G財団の助成を受け、今年3月からスタートさせた事業の名称でもあります。中央市内の小中学校における外国籍児童生徒数の割合は県内でも高い水準にあり、外国にルーツを持つ子どもたちが、放課後、安心安全に過ごせる「第三の居場所」を作ること、言語や生活習慣に起因するつまづきや困難を解消し、学習はもちろん諸活動に前向きに取り組むことができるような力をつけることを目指しています。現在、ブラジルを中心に、ペルーや中国など、31名の小中学生が登録し、火曜日～金曜日の14:30～18:30、各々のニーズに合わせて日本語の習得や学校の宿題に取り組んでいます。



この日も、子どもたちは積極的に机に向かっていました。ある児童は「50問テストがあるから」と漢字練習に励み、その隣では、別の児童が、自主学習として書籍の「機織りと糸つむぎ」のページを開き、その内容を熱心にまもていました。このほか、スタッフの支援のもと、算数や日本語学習に取り組む児童もいました。支援スタッフは、通訳や元小学校の先生などで構成されています。一日に必ず三人は配置されることになっており、きめ細やかな学習指導とともに、子どもたちとスタッフとの間の温かいやり取りやそれに伴う笑顔も大変印象に残りました。



教室の壁の高いところに視線を向けると、「ゆめ 夢 Sonho Dream」と書かれた大きなポスターが目に入ります。ひらがな、漢字、英語に挟まれた「Sonho」とは何でしょうか。これは、ブラジルの公用語であるポルトガル語で、意味は「夢」、「ソーニョ」と発音します。スタッフの方によれば、複数の言語で書かれた「ゆめ」は、この教室のスローガンで、「夢を実現しよう」という思いが込められているとのことでした。

「居場所」とは、「安心してここにいてもいいのだと思える場所」のことであり、子どもたちが、自分の良さに気づいたり、才能を伸ばしたりするためには不可欠なものです。その意味で、この事業は、外国籍の子どもたちの未来を創る取り組みであると言っても過言ではありません。

これからこの事業がますます発展していくことを願います。

防犯教室の新しい形

～甲西中学校「甲西プライドサミット」より～



6月28日午後、期末試験を終えたばかりの甲西中学校（今津義弘校長）屋内運動場で、全校生徒を対象とした防犯教室「甲西プライドサミット『スマホ・ネットの利用について考える』～みんなが正しく楽しくすごすために～」が実施されました。

今回行われた防犯教室「甲西プライドサミット」には、生徒の学びを深いものにするための「しかけ」がさまざまなところに施されていました。そのうちの二つを紹介します。

一つ目は、「全員参加型パネルディスカッション」とでもいうべき形式が採用されていたことです。通常、パネルディスカッションとは、パネリストと呼ばれる複数の論者が、あるテーマについて、それぞれの意見を表明しながら進める討論方式のことを言いますが、この「サミット」で発言するのは、パネリストだけではありません。あらかじめ設定された班ごとに一斉に話し合ったり、その話し合いの内容を発表したりと、その場にいる全員に発言の機会があります。甲西中学校としては初めての試みとのことでしたが、受け身になってしまいがちな講義形式と比べ、生徒たちが当事者意識を明確に持ち、「サミット」に参加できていると感じました。

二つ目は、「パネリスト」が多様であったことです。パネリストとして参加したのは、県警本部からの講師1名、生徒3名（各学年1名ずつ）、保護者2名、教師2名です。

問題意識を共有したうえで、年齢も立場も異なるさまざまな人の意見を聞くことは、個々の考えを広げたり、深めたりするのに非常に有効です。中でも特に、保護者（＝親の立場）からスマホに対する意見や子どもに対する思いを聞いたことは、生徒の今後の生活に影響を与えていくでしょう。

第一歩を踏み出した「甲西プライドサミット」に今後も注目していきたいと思います。



#中北ボタン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。

荏崎愛は荏崎の景色から

令和6年度中北地区地域教育推進連絡協議会会長

荏崎市教育委員会 教育長 堀川 薫

「『荏崎愛』の象徴は」と言えば、ノーベル生理学・医学賞受賞者である「大村智博士」の名前を真っ先にあげることができる。生まれ育った荏崎のためにとたくさんの愛を注いでくださる大村博士の存在は荏崎市民の誇りである。「眺望は人を養う」という言葉は大村博士から教えていただいた。荏崎の風景、どこにでもあるような田舎の風景を「美しい」と再認識したのは、初めて荏崎大村美術館を訪れ2階の展望室からの景色を見た時である。そこには唯一無二の荏崎の眺望が広がっていた。南に見える富士山、北のハヶ岳はもちろんであるが、正面に広がる景色に圧倒的な存在感を覚え、これぞ荏崎の原風景であると感じた。生家である螢雪寮の土蔵2階には大村博士の勉強机が置かれているが、その小窓から見える景色も同様である。博士はこの荏崎の景色を見ながら学びの基礎を培われた。この眺望が大村智博士の礎になっていると考えると荏崎市民として新たな力が湧いてくる。

荏崎の子供たちは幸いなことに偉大な大村博士とスタート地点は同じである。博士が歩んだ道は荏崎からストックホルムにつながっていたが、さて子供たちの道はどこにつながっていくのだろう。生まれ育った荏崎の原風景を胸に、子供たちが自分の夢に向かってそれぞれの道を歩いていってくれることを切に願う。一人一人の夢の実現のため、教育環境を整え、必要となる力を身に付けさせていくのが私たちの役目であることを日々実感している。



学園祭シーズン到来

～甲府西高校「第73回鳳凰祭」より～

6月は高校の学園祭シーズンです。甲府西高校（高見澤圭一校長）においても、73回目となる「鳳凰祭」が、6月27日・29日の2日間にわたって開催されました。1日目は、YCC県民文化ホールで吹奏楽部をはじめとする文化局の舞台発表、年次の枠組みを越えてのブロック合唱、クラスごとのダンス発表（2年生）、演劇発表（3年生）などが行われました。2日目は、活動場所を校内各所に戻し、1年生各クラスの展示や文化局展示、模擬店、ロックコンサートなどが催されました。

「制服リサイクル」に行列

2日目の一般公開時間10:00を目前に控え、南館2階付近で長蛇の列に遭遇しました。列の先頭に行ってみると、そこは、中古の制服を安価で提供する会場でした。鳳凰祭における恒例企画の一つで、商品として並べられているのは、3年生が卒業時に持ち寄った数々の制服です。主催は、甲府西高校PTA進路福祉委員会で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年間の中断を経ましたが、昨年復活し、今年も実施されました。会場には、ブレザーからネクタイ等の小物までが種類ごとに並べられ、それぞれが数百円という格安の値段で購入できます。人気はYシャツ、ポロシャツ、体育着とのことで、PTA進路福祉委員長の久保田香織さんは、この企画に対する関心の高さは、子どもの成長で買い替えが必要になること、また、制服のパーツが増えていることなどが影響しているのではないかとお話ししてくれました。売り上げ金は、学校の備品や、進路関係の書籍の購入にあてられ、生徒に還元されるそうです。



手前に写っているのが大空像

全員で作る牛乳パック製「モニュメント」

恒例と言えば、4階建ての北館の壁一面を使っの牛乳パック製巨大モザイク画（モニュメント）もその一つです。生徒一人一人から計画的に集めた牛乳パックを材料として、校舎中庭に立つ「大空像」と「七十三回鳳凰祭」という文字を表現しました。鳳凰祭期間中はその象徴としての役割を果たす「モニュメント」ですが、終了後は一体どうなるのでしょうか。実は、大量の牛乳パックは、鳳凰祭終了後、ごみとして処理するのではなく、業者に渡し、リサイクルに回すのだそうです。

パンフレットには、「eco宣言」というページがあり、そこには各模擬店の「eco」につながる取り組みも紹介されていました。

「持続可能性」に対する配慮や工夫が随所に感じられ、学びの多い学園祭でした。



～紙面を飾ってみませんか～ 地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。お問い合わせは下記まで、お気軽にお声がけください。

令和6年度『中北.com』No.2 編集・発行 中北教育事務所 担当 内藤 賢・望月 亜由
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4 電話 0551-23-3046 FAX 0551-23-3013